

みなさんの参加をお待ちしています！

- ▶ラボメンバー募集中！
- ▶NPO インターンシップを立ち上げたい、ブラッシュアップしたいという相談、大歓迎。
- ▶NPO インターンシップや若者と地域の連携にまつわる相談もお待ちしています。
- ▶イベントなどの情報は facebook ページをご覧ください。

参加メンバー (2018年度)



芦澤 弘子
聖学院大学ボランティア
活動支援センター



大木本 舞
たかはら子ども未来基金
とちぎコミュニティ基金



直井 友樹
NPO 法人 NICE



山岡 義卓
神奈川大学



今井 迪代
「コーディネーター」体験
インターンシッププログラム
NPO 法人まつど NPO 協議会



高城 芳之
NPO インターンシップ
NPO 法人アクションポート横浜



西尾 愛
社会を知るためのワカモノ ×
NPO インターンシッププログラム
認定 NPO 法人藤沢市民活動推進機構

団体名
NPO インターンシップラボ

設立
2018年5月

- 主な事業
- ①NPO インターンシップの価値発信
 - ②プログラム立ち上げサポート
 - ③プログラムの質の向上

連絡先 (事務局)
NPO 法人アクションポート 横浜

〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町 94 横浜中華街パーキング内
TEL 045-662-4395 mail info@actionport-yokohama.org



本事業は公益財団法人トヨタ財団の助成で運営しています。

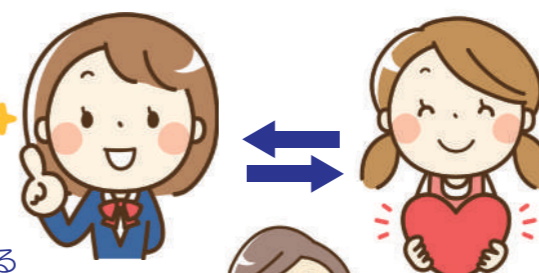
NPO インターンシップラボ



NPO インターンシップラボでは地域と若者の出会いや双方の成長を促すことができる「NPO インターンシッププログラム」に着目し、運営していく中間支援組織が効果的なプログラムが展開していけるようにサポートをしていきます。

学生

- 多様な大人との出会い
- 社会課題に気づく
- 小さなアクションをする



NPO

- 新しい人材の受け入れ
- 事業の見直し



NPO インターンシップの
教科書販売中！



価値発信

シンポジウムの開催や実態調査を通じて、価値を発信します。



立ち上げサポート

地域に根付いたプログラムが育まれるようサポートします。



質の向上

プログラムを支えるコーディネーターのスキルアップやネットワークづくりを行います。

<http://intern.yokohama/labo/>

<https://www.facebook.com/npointernlabo/>

● 主な事業 (2018年度)



シンポジウム開催

9月15日にキックシンポジウムを開催。全国から60名の参加者が集まり、基調講演と3つの分科会を運営。2019年度にも第2回シンポジウムを開催予定。



定期的な勉強会の開催

事例研究とコーディネーター同士のノウハウ共有を目的に、定期的な勉強会を開催。2018年度は東京(1月20日)と埼玉(3月20日)で1回ずつ開催。



セミナーでの事例報告

日本NPOセンター主催で11月23日に開催された市民セクター全国会議でNPOインターンシップについて事例報告。多くの方に参加いただきました。



白書づくり(実態調査)

全国のNPOインターンの実態を調査し、運営ノウハウの抽出と蓄積、NPOインターンの価値を見える化していきます。2020年度に発行予定。



相談窓口

NPOインターンシップの立ち上げに関心のある団体へ向けて伴走支援をします。写真は世田谷での勉強会(3月26日)の様子。



ネットワークづくり

ホームページやfacebookページ、メーリングリストの運営などを通じてメンバーへと情報発信とネットワークづくりを行いました。
<https://www.facebook.com/npointernlabo/>

● NPO インターンシップとは

主に大学生・専門学生・高校生がNPOで一定期間インターンシップ(就業体験)をするプログラム。

運営主体や実施期間などは様々ですが、ラボでは地域の活性化や社会課題解決の促進等が目的に掲げられ、**学生が地域やNPOを学び、社会参加するきっかけ作り**として行われているプログラムを対象としています。

● NPO インターンシップについて調べてみました!

就職を目的としたインターンシップではなく、若者の成長や団体・地域の活性化を目的としたインターンシッププログラムを「地域系オルタナティブインターン」と名付け、初めの実態調査を行いました。調査結果の一部を抜粋して紹介します。

「地域系オルタナティブインターン(仮)実態調査」

調査期間：2019年1月8日
～2019年1月25日

調査依頼件数：37件
回答数：17件(回収率：46%)

プログラムの理念・目的に含まれる視点は?

- 若者自身の学び・成長(16件)
- 地域の活性化(12件)
- 受入れ団体の支援(11件)

運営でもっとも時間をかけているところは?

- インターン生への対応(13件)
- 事前研修・報告会等の企画実施(9件)
- 日常の事務局業務全般(7件)

プログラムを運営する上で、日々工夫している点は? (※自由記述より抜粋)

- 参加者の主体性を引き出すこと。個性を尊重すること。
- 若者ときちんと向き合ってヒアリング。
SNSを活用したコミュニケーション、適宜個別の中間面談等も実施。
- 参加者と受入れ団体双方のニーズを、言葉に変換して伝えること。
- 団体や大学等の関係機関に「当事者性」を持って関わってもらう。
できるだけ初めから一緒に考える。

○その他の調査項目(抜粋)・・・こんなことも調べました! 詳細はお問合せください。

- ・プログラムの担当者数、総運営工数は?
- ・学生の活動費、支払っている?支払っていない?
- ・現在の課題は?
- ・財源は?複数ある場合はどう組み合わせている?

